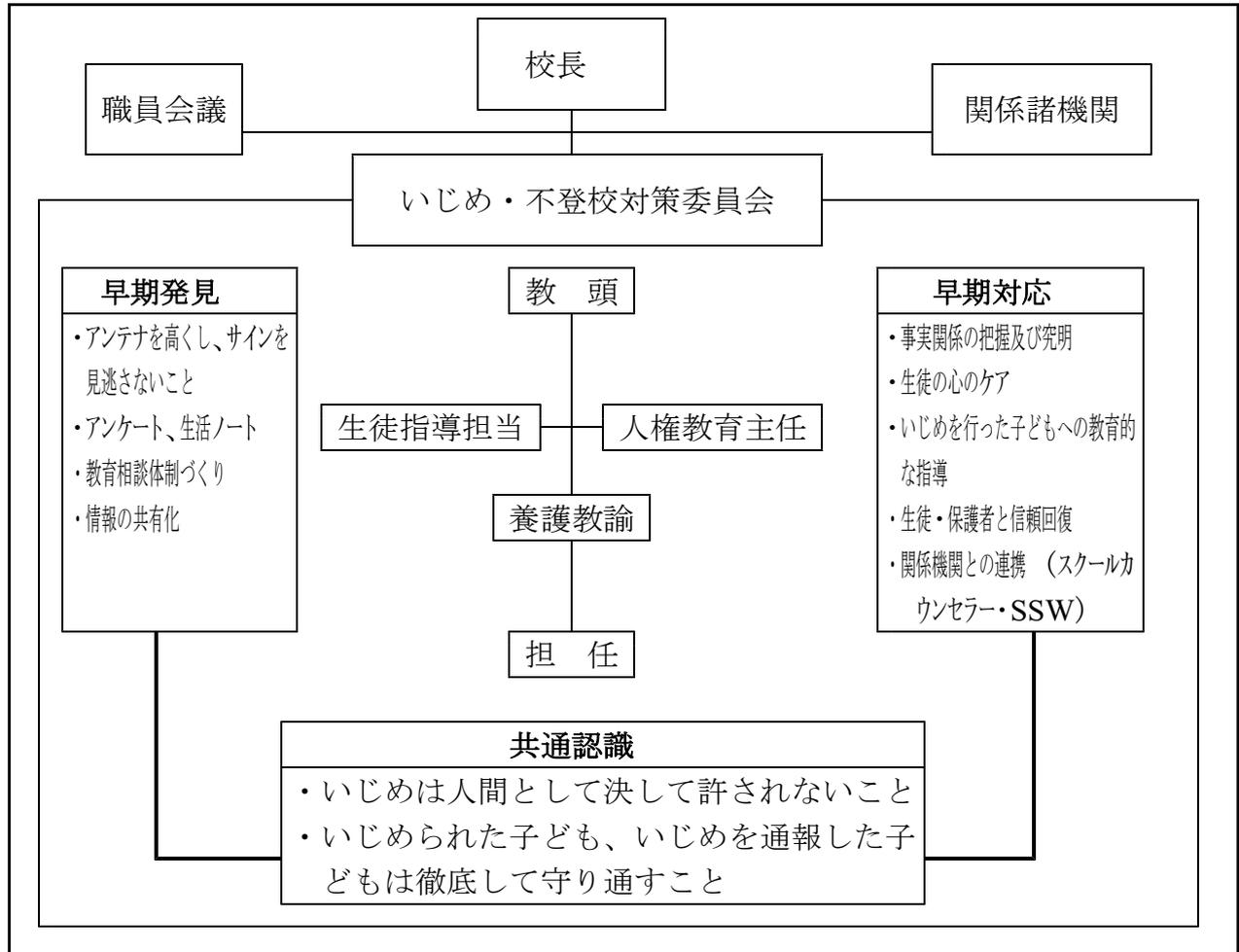


久木野小 いじめ防止基本方針

1 いじめ不登校対策委員会



いじめ問題に真正面から向き合うためには、早期発見、早期対応に努め、「いじめは絶対許さない」という強い思いをもち日々指導をしていくことが大切である。

そして、何よりも「仲間づくり」を大切にし、自分の思いや考えを言い合える学級、失敗しても互いに、認め、励まし合う学級づくりに取り組んでいく。このことにより、子どもたちの自尊感情は高められ、自他を大切に思う心や命を大切に作る心を醸成していく、それがいじめ根絶への最大の近道と考える。

2 具体的な対策

(1) 支持的な学級風土づくり

- ① 学級担任を中心に、認め、ほめ、励まし、伸ばすを基本に「支持的な風土づくり」を目指して学級経営に取り組んでいく。その際、常に「人権尊重の精神を培うための自己点検」を全職員で行い、「人権を尊重しているつもり」を防ぐ取組を行う。
- ② いじめに関するアンケート（年2回）や、教育相談、個別カウンセリングを通して、子どもたちのサインを見逃さないようにする。
- ③ 「子どもを語る会」（火曜日）や気にかかる子どもについて気づいたことや指導したことを職員に伝え、子どもに関する情報交換を行い、共通理解・共通実践を図って、見守る。

(2) 授業改善

- ① LD (学習障害)・ADHD (注意欠陥/多動性障がい)・高機能自閉症等といった発達障害のある子どもの学習面でのつまずきの「気づき」、つまずきの背景や原因の明確化、それに基づく「個別の指導計画」の作成、個に応じた指導の工夫、個別の評価、という PDCA サイクルによる一連の支援は障がいのあるなしにかかわらず、全ての子どもに有効なものとなっているので本校でも、発達障がいのある子どもに視点を置いて、視覚的、聴覚的に教材提示の工夫を行うなど個別的な配慮事項を盛り込むことで、通常学級における授業改善への大きな手がかりとする。
- ② 排除しない心・自尊感情の育成
子どもによっては、自尊感情の育ちが未熟で、その結果自分を過小評価してしまい、学習や生活の意欲を見失い、逆に高いプライドから友人関係を損ねてしまうことになる。自尊感情の育成は大きな課題であるが、一人ひとりの児童に目を向け、根気強く育成する。
- ③ 教室環境・学校環境整備～ユニバーサルデザイン化～
注意集中が困難な ADHD の子どものために、前面に過度な掲示物をしない工夫、独自に困難を示す LD や知的障がいの子どものために漢字にふりがなを振る、高機能自閉症の子どものために一日の流れをわかりやすく明示したものを貼るなど、発達障がいの子どものための教室環境、学校環境の整備が求められている。そしてこのことは、本校においてどの子どもたちにとっても役立つものと思われる。

(3) 家庭・地域との連携

- ① 学校便り (校長)、学級通信、担当からの各種通信の発行
- ② 人権こども集会への参加
- ③ 本校 P T A が主催する家庭教育学級や村 P T A 連絡協議会と村学校保健委員会の共催で子育てに関する問題や健康教育、食に関する指導、特別支援教育といった今日的なテーマで講演会を開催し、参加を呼びかける。

(4) その他

* くぎのなかよしせん言

くぎのなかよしせん言

「わたしたちは、一人一人の気持ちを知ることが大切にし、友だちと助け合って生活します。」

「わたしたちは、見て見ぬふりをせず、おたがいに声をかけあう仲間になります。」

「わたしたちは、ぼかぼかことばや、思いやりのすがたがあふれる久木野小学校にします。」

くぎのしょうがつこうじどう会